

だうんとびっくす

まちの話題や出来事をご紹介します

今月の一枚



安来農林振興協議会が市内小学校の卒業生全員に花をプレゼント。卒業式の日先生から手渡されました。旅立ちの日の思い出の一つとなりました。

3月18日：飯梨小学校

子育て世代と語る 市長日記

市長に就任してから各地域や団体などの会合に出向いて、座談会を開催しています。

今回は、安来保育所の保護者さんと意見交換。放課後児童クラブや小学校入学後のことなど、子どもたちの将来についての率直な意見をいただきました。今後も多くの皆さんの声をお聞きして、住みやすい、子育てしやすいまちづくりを目指していきます。



◀子育て真っ最中の保護者さんと保護者会の総会后、意見交換する市長（3月9日）。

▶話し合いをする参加者。有意義な時間を過ごしました。



双子の育児を支える会

双子を持つお母さん、お父さんが交流できる場をつくろうと「双子交流会」を3月5日、安来市健康福祉センターで行いました。市内で令和2年に生まれた双子の親子6組を対象に開催。この日はその内の5組が参加しました。お母さんたちは、自身の経験を踏まえながら、双子ならではの育児での苦労や工夫していることなどを話し合いました。

参加者からは「お互いに情報共有できて良かった」などの声が上がっていました。

▶協定を取り交わす前田支店長（左）と田中市長（右）。



市民の健康維持に向けた協定

市と大塚製薬株式会社は、3月30日、住民サービスの向上と健康的な生活の実現に向けた包括連携協定を締結しました。

熱中症対策や食育部門を得意分野とする同社。この協定により、そのノウハウやネットワークを活用して幅広い市民サービスの提供が期待できます。

同社広島支店の前田朋明支店長は「私たちの会社の技術をさまざまな分野に生かしていきたいと考えています。市民の皆さんが必要としていることを的確に把握して、スピーディーに取り組みを進めたいです」と話していました。



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック」で公開しています。



ラジコンカー人気が再燃

コロナ禍で需要が伸びている模型市場をさらに盛り上げ、県内の産業振興につなげようと3月20日、「第1回RC CAR MEETING in 島根」が上の台緑の村で開催されました。

自慢の愛車を持ち寄ったラジコン愛好家たちは、ジャンプ台などが設置された特設コースで、腕前を披露していました。



▲見晴らしの良いお立ち台から操縦する参加者。

親子連れで参加した田中瞬さんは「ラジコンカーを購入してまだ2カ月。3歳の子どもと一緒にコースへ出るのを楽しみにしていました。今後このようなイベントがあれば参加したいです」と話していました。

建築・住宅コンクールで奨励賞

徳應寺納骨堂「無量寿堂」が「令和2年度しまね建築・住宅コンクール」で奨励賞に選ばれました。

数坪の小さい空間ながらも細部まで気配りがなされて設計・施工されている点や発注者と設計者、施工者、檀家を含めた全員のチームワークを感じさせる点などが評価されました。

同コンクールは、建築物や住宅などに関して先駆的、模範的な取り組みを行っている団体などを表彰。良好な居住環境と良質な建築物の整備を進めることを目的として、毎年度実施しています。



▲同寺住職の橋正彰さん(中央)と設計を手がけた安藤建築設計室の安藤夫妻(左右)。施工した平井建設(株)も受賞しました。

年賀状コンクールで日本一

手作りの年賀状を作成して「手書きの良さ」や「手作りの良さ」に親しんでもらおうと日本郵便株式会社が行った第18回全日本年賀状大賞コンクールで、比田小学校1年の上田真聖くんの作品が大賞を受賞しました。出品は版画部門小学生1～3年生の部。全国1,359点の中から選ばれました。

作品は数種類の紙で牛や山、桜を描いた紙版画で、お兄さんへ「元気いっぱいできてね」というメッセージが込められています。

上田くんは「牛の耳を作るところをがんばった。大賞に選ばれてうれしいです」と話していました。



▲奨励賞に吉原市華さん(1年、右)、審査員特別賞に藤原暖太くん(6年、左)の作品も選ばれました。

▶講演を行う小川氏。医療、介護、福祉関係者ら約100人が参加しました。



社会とのつながりでフレイル予防

新しい生活様式におけるフレイル(虚弱)予防や介護予防、健康づくりなどについて考えてもらおうと地域ケア推進会議を2月28日、市総合文化ホールアルテピアで開催しました。

会議では、老年疾患・加齢に関する研究を行う東京大学准教授の小川純人氏が講演。同氏は、「フレイルの要素には、身体だけでなく認知機能やうつ等の『精神・心理的フレイル』や独居、経済的困窮等の『社会的フレイル』があります。運動や栄養、社会参加の3つが予防につながります」と話し、未然に防ぐことの大切さを伝えていました。